

博士前期課程

科目群の学習・教育目標

- 建築の立地条件の特徴を活かし、計画コンセプト・施設プログラムを組み立て、適切な空間構成や建築形態に発展させることができる。
- 都市計画とその実践プロセスに関する知識を修得し、都市的視点で建築を考察し、設計・計画することができる。
- 生態学的持続可能性の重要性を理解し、環境保全、修復、保存再生に関する知識を得ることができる。
- 建築施工技術を包括的に理解し、建築構法に関する知識を得ることができる。
- プロジェクトを推進するために求められる環境計画、構造計画、施工技術、その他関連する技術の理解を深めることができる。
- 人間と建築、建物相互、および周辺環境の空間を理解し、これらに適切なスケールと空間の質を与えることができる。

- 建築の歴史、設計理論、また建築に関連する芸術・工学・人文科学などに関する知識を得ることができる。
- 快適で安全な建築環境を実現するための建物性能技術に関する知識を得ることができる。
- 建築関連産業、予算、法的制約等を理解し、総合的な視点で建築を設計し工事費管理を行う基礎的知識を得ることができる。
- 文献・実地調査により、総合的に建築を分析・考察する能力を身につけることができる。
- さまざまな知識や技術を総合化し、社会が求める課題に対して建築的提案をすることができる。
- 機能性・居住性・意匠性・維持管理性など、建築に求められる諸要求に応えた設計・計画をすることができる。
- 研究成果を論文や作品にまとめ、その内容を論理的かつ魅力的に説明することができる。
- 協働社会の一員として、建築の設計・計画全般を推進し調整する能力を養うことができる。
- 建築設計・計画の職能とその社会的使命を理解することができる。
- 学生・教員相互のコミュニケーションにより学習・研究・教育方法について研鑽を行う。
- 学習・研究・教育方法について、学生・教員双方がそのプロセスや成果について意見交換を行い、教育研究プログラムの特徴が活かされるよう継続的な内容の見直しを行う。

前学期

入門科目

計画・都市特論Ⅰ	2
構造・構法特論Ⅰ	2
環境・設備特論Ⅰ	2

後学期

基盤科目

計画・都市特論Ⅱ	2
構造・構法特論Ⅱ	2
環境・設備特論Ⅱ	2

応用科目

計画設計特論	2	建築論特論	2
不動産管理特論	2	都市地域計画特論	2
空間構築特論	2	構造設計特論Ⅰ	2
構造設計特論Ⅱ	2	環境設計特論	2
環境心理特論	2		

モジュール統合科目

建築計画設計統合特論	4
建築構造設計統合特論	4
建築設備計画統合特論	4

特別科目

インターンシップ A	1	インターンシップ B	1
建築学専攻特別講義	2		
建築構造設計演習			3
環境・設備設計演習※ 1			3
副専修セミナー※ 1			2
建築インターンシップ A ※ 2			3
建築インターンシップ B ※ 2			7

専修科目（修士研究）

建築設計・意匠研究（修士設計）	8
建築設計・意匠研究（修士論文）	8
都市・地域計画研究	8
空間構築研究	8
建築構造研究	8
建築環境・設備研究	8

1
年次1
年次・2
年次

※ 1 平成 29 年度のみ、2 年次は集中講義、1 年次は後学期に開講される。

※ 2 1 年次、2 年次を通して開講される。

博士後期課程

前学期

特殊研究

建築設計・意匠特殊研究	4
都市・地域計画特殊研究	
空間構築特殊研究	
建築構造特殊研究	
建築環境・設備特殊研究	

主要科目

企業価値とイノベーション	2
建築学特論	2

特別科目

リサーチインターンシップ	4
--------------	---

1
年次・2
年次・3
年次

〈学習・教育目標〉

建築学の広範な領域に関する知識を修得するとともに、建築学における主要領域である設計・意匠、都市・地域計画、空間構築、構造、環境・設備の中から、いずれかにおける高度な専門的知識を深め、人間社会と密接な関係を持つ建築学において、さまざまな視点から問題解決に適切に対処でき、社会の発展に貢献できる高度な建築技術者および研究者を育成する。

- 建築学の広範な領域（設計・意匠、都市・地域計画、空間構築、構造、環境・設備）の知識を横断的に修得することにより、さまざまな視点から総合的に建築を分析し、考察する基礎的能力を身につけることができる。
- 建築学の専門化された分野のいずれかにおける高度な専門的知識や技術を深めることにより、建築界の発展に貢献できる高度な技術者および研究者となるための専門的能力を高めることができる。
- 広範な領域の知識の修得と専門分野の研究を同時に行うことにより、建築学の全体像が理解できるバランスの取れたスペシャリストとして、さまざまな視点から問題解決に適切に対処できる総合的能力を養うことができる。
- 各授業での学習・研究成果の発表を、論理的かつ魅力的に行う努力を続けることにより、社会で求められるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高めることができる。
- 建築に関わるさまざまな知識や技術を総合化し、専門領域の異なる技術者とのコラボレーションで建築をつくり上げる能力を身につけるとともに、建築技術者の職能とその社会的使命を理解することができる。

博士後期課程

特殊研究

建築設計・意匠特殊研究 4単位 Advanced Studies in History and Philosophy of Architecture

世界の近代・現代建築、歴史的建築、ヴァナキュラー建築を対象とした建築作品分析、すなわち建築デザインの発想と展開、具体化、設計のプロセスの高度な研究を行う。これは建築設計論、建築論、建築史、建築批評の重なりあった領域であり、この領域で有効な建築論・哲学的分析、歴史学的分析、表現論・批評論的分析など高度な分析方法の研究も行う。そして、これらの研究活動を通して、建築学関連分野に展開できる高い問題解決能力を身につけるとともに、専門分野において自立して研究活動ができる能力を養う。

目標: 建築デザインの発想と展開・具体化・設計のプロセスや、建築設計論・建築論・建築史・建築批評の高度な分析方法の研究を行うことにより、建築学関連分野に展開できる高い問題解決能力を身につけ、専門分野において自立して研究活動ができる。

都市・地域計画特殊研究 4単位 Regional and Urban Design

都市・地域の成り立ちに関わる、歴史的背景、構成要因、ダイナミズムなどの諸側面について、具体的な資料や調査を基に、現在から将来にかけて都市・地域社会が抱える問題と課題を洞察かつ予見し得る、独自性に富んだ研究を行う。そして、これらの研究活動を通して、都市・地域計画関連分野に展開できる高い問題解決能力を身につけるとともに、専門分野において自立して研究活動ができる能力を養う。

目標: 都市をシステムとして捉え、1. その成り立ちを説明できる。2. 都市のさまざまな事柄に問題意識を持ち調査・分析できる。3. 都市の課題について研究テーマを設定し、自立して研究活動ができる。

空間構築特殊研究 4単位 Space Construction Systems

建築空間の計画、設計、施工、維持管理、改築をひとつのつながりとして、安全性においても、経済性においても、環境問題としても、正しく実施するために、これらの中のさまざまな側面を調査、研究し、新たな手法を開発し、それが総合的に正しいかどうかを判断できる能力を養う。そして、この過程で、建築学の関連分野にも展開できる高い問題解決能力を身につけるとともに、専門分野において自立して研究開発ができる能力を養う。

目標: 建築空間の計画、設計、施工、維持管理、改築をひとつのつながりとして、そのさまざまな側面を調査、研究できる。これらのさまざまな問題に対する新たな手法を開発するなど、専門分野において自立して研究開発ができる。

建築構造特殊研究 4単位 Structural Engineering

超高層、空間構造、伝統的木造建築物などの建築構造に関する諸問題に対して、先駆的な基礎・応用研究を行う。研究を通して、高度な問題解決能力、建築構造設計や技術開発に展開できる応用力を身につけるとともに、建築構造分野において自立して研究活動ができる能力を養う。

目標: 建築構造学において萌芽的研究テーマを提起することができる国際的視点に立ち、既往の研究に対して自分の研究の位置付けを明確に説明することができる。提起したテーマを展開する方法論を構築し、先駆的な基礎・応用研究に展開することができる。豊かな人間力を持つ高度専門技術者・研究者として、建築構造専門分野において自立して研究活動ができる。

建築環境・設備特殊研究 4単位 Environmental Engineering and Building Systems

我々人間を取り巻く建築や都市の環境を健康で快適な状況に維持し向上させるために必要な建築環境工学や都市環境工学および建築や都市の設備に関する諸問題を研究対象とする。音・光・空気・熱などのさまざまな環境やこれらに係わる建築設備や都市設備などについての理論や技術を取り上げ、これからの時代の建築や都市に求められる新しい理念の構築に寄与することを目指す。また、これらの成果を具体的な建築や都市に適用した環境計画や環境設計にも取り組み、高い問題解決能力を身につけるとともに、専門分野において自立して研究活動ができる能力を養う。

目標: 新しい時代の建築・都市に求められる建築環境・設備分野の理論や技術に関し、先駆的な理念を構築できる。現実の社会で発生する問題に対し、調査研究を通じて解決の方向性を与えられる。建築環境・設備を中心とする専門分野において自立して研究活動ができる。

博士後期課程

主要科目

企業価値とイノベーション 2単位 Enterprise Value and Innovation

高度専門技術者や研究者にとって、自らが取り組んでいる研究の置かれている状況を客観的に分析すること、さらなる研究価値を向上させることは重要である。このとき、社会的要請、社会が受ける研究成果によって得られる価値、競合する研究との差別化などを合理的に理解・整理すること、あるいはそれらが考慮された研究を行うことが必要である。さらに企業にあっては国際的な標準化を視野に入れた開発や知財による研究開発の保護などを十分考慮して企業価値を高めることが必須である。本科目は、これらのことを具体的な事例を交えて、企業価値の創造やイノベーションの創出を考え、研究活動に結びつける手法について学ぶ。

目標：社会要請、社会が受ける研究成果によって得られる価値、他の研究との差別化、または国際的な標準化に対する位置付け、知財による研究開発の保護などの企業価値と直結する内容について学び、研究活動に活かすことを目的とする。

建築学特論

2単位 Advanced Research on Architecture

建築学における主要領域である設計・意匠、都市・地域計画、空間構築、構造、環境・設備のいずれかの分野においてより高度な専門的知識と経験を深めるために、各専門分野の教員とのディスカッションを軸とする分野横断型の調査・研究活動を行う。これにより専門領域の幅を広げ、専門性を活かせるプロジェクト、調査活動などを通して、専門分野において自立した研究活動ができる能力を養う。

目標：社会要請、社会が受ける研究成果によって得られる価値、他の研究との差別化、または国際的な標準化に対する位置付け、知財による研究開発の保護などの企業価値と直結する内容について学び、研究活動に活かすことを目的とする。

博士後期課程

特別科目

リサーチインターンシップ 4単位 Research Internship

この科目では、「特殊研究」で行う研究テーマと関連のある研究や技術開発を行っている民間企業（あるいは、公的研究機関）に長期間（3ヶ月以上）滞在し、組織の中で実践される研究・開発のプロセスについて理解を深めると共に、一人の研究・開発者として組織に貢献することを目指し、就業体験を行う。派遣先企業（あるいは公的研究機関）は、本学にある研究所や、「特殊研究」の指導教員との共同研究及び受託研究を基盤に、密接に連携している企業（あるいは公的研究機関）の中から、派遣先の意向も考慮して決められる。

目標：1. 自らの専門研究分野について、最先端の現場で行われている研究・技術開発について理解できる。2. 就業体験において提供された課題を深く理解し、具体的な解決策を立案し、実際に試行することができる。3. 就業体験を基に大学院での残りの期間の研究計画・修学計画を立案できる。